

6. 十日町市立十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・

発達支援センターおひさま

小・特・発達支援センター・学童保育の複合化事例。交流スペースの整備

所在地

新潟県十日町市学校町1-614-32
 新潟県十日町市学校町1-760
 新潟県十日町市学校町1-614-31

障害種

知的障害
 (肢体不自由・発達障害)

児童生徒数 施設情報

ふれあいの丘支援学校

	学級	人
小学部	2	11
中学部	8	29
計	14	48

鉄筋コンクリート造
 2階建て
 1,645㎡
 平成25年竣工

十日町小学校

	学級	人
計	16	257

鉄筋コンクリート造
 2階建て
 402㎡
 平成25年竣工

※内特別支援学級
 2学級11名



背景・沿革

○ 当初ふれあいの丘支援学校は、県立学校として、小学校の併設をせず、別の場所に建築する方針で計画が進められていたものの、地域の共生教育を求める声の高まりを受けて、市立学校として小学校・特別支援学校の併設が実現した。
 ○ 小学校・特別支援学校・発達支援センターの複合施設として、当時、例のない画期的な施設として一体整備が行われた。

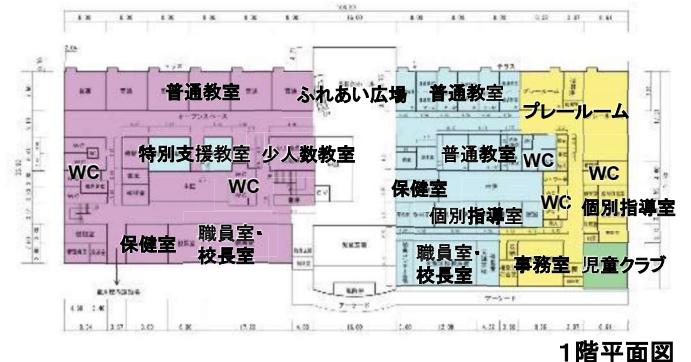
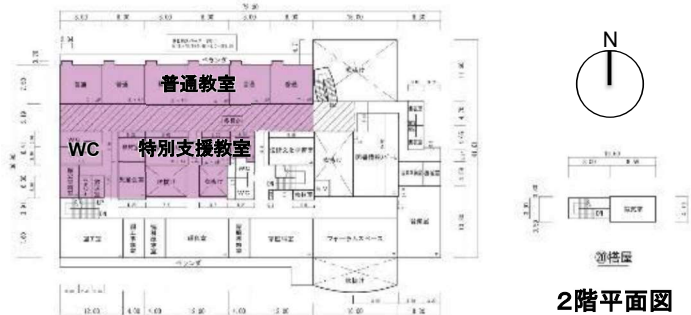
31

6. 十日町市立十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・

発達支援センターおひさま

平面図

- 十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・発達支援センターが併設一体型となるにあたり、そのメリットを最大限生かすことが課題となった。施設整備時に配慮された点は下記の通り。
- ・両校の交流を効果的に実現するための、交流空間の確保と配置の工夫
- ・教室と間仕切り可能なオープンスペースとして利用できる廊下の配置
- ・両校をつなぐ東西直線100mの広い廊下の配置
- ・両校の生徒が共同で利用する玄関及び「ふれあい広場」の配置



■ 十日町小学校 ■ ふれあいの丘支援学校 ■ 発達支援センター
 □ 共用スペース

6. 十日町市立十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・

発達支援センターおひさま

必要な整備

- 障害のない子供と障害のある子供の交流・ともに学ぶ場とともに、小学校・特別支援学校・発達支援センターが併設一体型となるメリットを最大限生かす整備が必要。
- 時代の流れとともに変化する児童生徒数に対応できる施設整備が必要。

実際の整備

- 小学校・特別支援学校の共用スペースとしてのふれあい広場や多目的ホールのほか、各学校にもオープンスペースを設けるなどして、共同学習の場を確保。
- 共同学習の場を設けるに伴い、防音機能を確保するなど、特別支援学校に通う児童の学習環境に配慮。
- PTAをはじめとする地域住民が行事等に参加しやすいよう、フォーラムスペース等を確保。ふれあい広場も交流の場として利用
- 多目的スペースや間仕切り等を整備することで柔軟な教育活動が展開。
- バリアフリー化を徹底するとともに、普通教室・特別教室・エレベーターの配置・プール等を含む総合的な施設計画。

今後の課題

- 現在、特別支援学校の児童数の増減に対しては、十日町小学校の教室の一部を利用して対応しているが、施設整備の観点からも対策が必要。
- 共同学習の場を有する学習環境の質の向上のためにクールダウン用のスペースが重要だが、現在は専用のスペースが無く、他の教室の一部を利用するなどして代用しているため対策が必要。

33

6. 十日町市立十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・

発達支援センターおひさま



校舎全景



十日町小学校から発達支援センターまで横断の東西直線100mの廊下兼オープンスペース



小学校と特別支援学校の中央に配置された共用スペース「ふれあい広場」



「ふれあい広場」では、PTAの交流会のほか、海外スポーツ選手との交流会等も開かれる

6. 十日町市立十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・ 発達支援センターおひさま



35

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)

主な観点

- 障害の特性に応じた施設整備(肢体不自由と知的障害の重複障害)
- 福祉子ども避難所(主に肢体不自由)・避難所対応経験
- 医療的ケア (ケアルームの整備)
- 障害の特性に考慮したバリアフリー化
- 学校施設の木材活用
- ※H26年に熊本支援学校から分離開設

所在地

熊本県熊本市西区横手5-16-28

障害種

肢体不自由・知的障害

児童生徒数

	人
小学部	40
中学部	14
高等部	15
計	69

施設情報

鉄筋コンクリート造
1階建て
延床6,172㎡
平成26年



福祉避難所の 視点

- 平成28年の熊本地震では避難所として活用され、一般の避難者と在学児童生徒とその家族の避難者のすみわけをする工夫がなされた。
- 平成31年1月に、熊本市の福祉子ども避難所(主に肢体不自由)に指定

36

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)

平面図

- 校舎は、平屋建てで、体育館・プール棟、管理棟、4つの普通教室棟、多目的ホールに分かれている。
- どの場所からも外部へ避難できるように設計されている。
- 教室棟は、学部ホールを中心に、それぞれ8つの普通教室を周囲に配している。



37

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)

必要な整備

- 車椅子、座位保持椅子等で活動する児童生徒のためのバリアフリー化が必要。
- 医療的ケアが必要な児童生徒のために看護師がケアをしやすいような配置計画が必要。
- 肢体不自由の児童生徒が意欲をもって校内を移動できるような工夫が必要。

実際の整備

- 昇降口や廊下、プールなどの個別の施設も含め、校内をバリアフリー整備とした。
- 医療的ケアが必要な児童生徒のために看護師がケアをしやすいよう、4つある各教室棟では、学部ホールを中心にして、その周囲に教室を配置。各棟に看護師が一人待機して最短距離で医療的ケアをする。
- 肢体不自由の児童生徒が意欲をもって校内を移動できるよう、湾曲させることで視界が少しずつ変化する廊下を計画。

避難所対応

- 建築構造的に地震に強かったこと、太陽光発電設備・非常用電源装置、雨水タンク、バリアフリーの施設環境が避難場運営に役立った。
- 熊本地震発災時、管理棟側と普通教室棟側で、一般避難者と在学児童生徒とその家族のすみわけがなされ、このことは学校再開時にも役立った。

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)



昇降口における送迎



廊下での移動



バリアフリー化されたプール

39

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)



学部ホール(小学部)



教室での医療的ケア(中学部)



湾曲している廊下

72

40

7. 熊本県立熊本かがやきの森支援学校(本校舎)



避難所開設時の体育館



体育館に隣接する多目的トイレ



体育館に隣接する多目的トイレ



避難所開設時の会議室



避難所開設時の管理棟前廊下



避難所開設時の車寄せでの配給の様子

41

8. 熊本県立熊本支援学校

主な観点

- 障害の特性に応じた施設整備(知的障害)
- 児童生徒数の増加への対応、教室不足(4教室)
- 福祉子ども避難所(主に知的障害)

所在地

熊本県熊本市中央区出水5-5-16

障害種

知的障害

児童生徒数

	学級	人
小学部	18	87
中学部	14	72
高等部	4	27
計	36	186

施設情報

鉄筋コンクリート造
1階建て(一部2階建て)
延床13,594㎡
昭和50年



背景・沿革

- 高等部を中心に児童生徒数が増加していたが、高等部を熊本はばたき高等支援学校に段階的に移行予定。(R6募集停止、R8～小・中学部のみ)
- 平成28年の熊本地震では通常の避難所として活用された
- 平成31年1月に、熊本市の福祉子ども避難所(主に知的障害)に指定

42

8. 熊本県立熊本支援学校

平面図

- 増築を重ねたため、配置上以下のような課題がある。
 - ・小学部の建物が複数に分かれ全体を把握しにくく職員室からの距離が遠い
 - ・平屋の建物が点在してデッドスペースが多い
 - ・学部・学年が混在している棟もあり、まとまりがない
- 昇降口と通学バス乗降所・駐車場との距離が近く、人と車両の混在も多いため、危険がある。
- 熊本市のハザードマップ上、浸水危険区域に立地している。



43

8. 熊本県立熊本支援学校

必要な整備

- 自立や社会参加を目指し、一人一人の障害・教育ニーズに合わせた施設環境が必要。
- 創立当初から年を追うごとに増える児童生徒数に対応できる規模の施設拡充が必要。

実際の整備

- 中庭は児童が安全に遊べる場として有効。
- プレールームなどの児童の活動スペースを1階フロアに集中して配置している。
- 窯業室、製菓室等、知的障害の特別支援学校特有の専門の教室を設置している。
- 生活訓練棟を設置し、調理などをはじめ、生活全般を実践的に学べる施設整備としている。
- 児童生徒数の増加に応じた教室数の拡充を、数年から十数年おきに実施。

今後の課題

- 児童生徒数の増加により教室不足が生じており、理科室、音楽室、図工室、家庭科室等が確保できていないほか、図書室も専用の室ではなく廊下の図書スペース等として運用している。
- クールダウンのスペースが少ない。
- もともとプレールームだった室を教室に転用したことで音漏れなど諸々の課題が生じている。

避難所対応

- 発電機を備えていた。また、飲用はできないものの井戸があったことで、トイレ等の衛生を保てた。
- 避難所としてのキャパシティやゾーニング等の面で、障害のある子供と家族が安心して避難できる環境にはなかった。
- 体育館の空調設備の整備、プライバシー確保・感染症対策のための間仕切り等の対応が課題。

44

8. 熊本県立熊本支援学校



中庭



プレールーム



窯業室



生活訓練棟

45

9. 熊本県立盲学校

主な観点

- 障害の特性に応じた施設整備(視覚障害)
- 福祉子ども避難所(主に視覚障害)

所在地

熊本県熊本市東区東町3-14-1

障害種

視覚障害

児童生徒数

	人
幼稚部	2
小学部	14
中学部	5
高等部	24
計	45

施設情報

鉄筋コンクリート造
2階建て(一部3階)
延床7,135㎡
昭和45年



背景・沿革

- 明治44年に視覚・聴覚の私立学校として設立、昭和22年に盲学校として分離し、昭和45年に現行の校舎に移転。
- 平成31年1月に、熊本市の福祉子ども避難所(主に視覚障害)に指定

46

9. 熊本県立盲学校

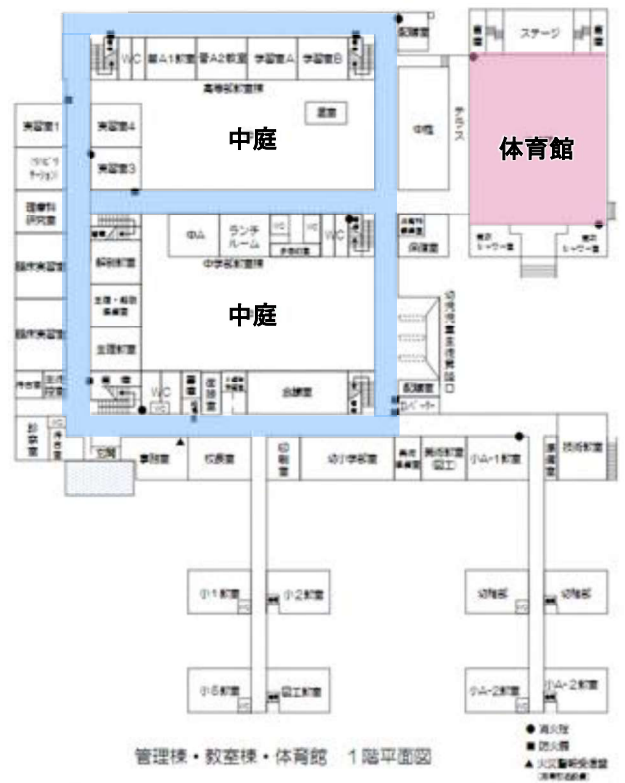
配置図・平面図

- 循環した動線で視覚障害のある児童生徒にとってわかりやすくなるよう、平面は、主要な廊下が「日」の字型になるように計画している。
- 災害時の避難所として、体育館と、予備として共同教室棟を検討しており、在籍児童生徒と一般避難者を区別せずに避難させる計画。
- 正門付近では、白杖を検知して歩行者を誘導する音声信号装置が採用されたり、最寄りの電停を含む盲学校から約2km四方に亘って誘導ブロックを敷設されている等、通学路を含め整備されている。

配置図



1階平面図



47

9. 熊本県立盲学校

必要な整備

- 視覚障害の特性に応じ、情報保障への配慮や職業教育の実施が必要

実際の整備

- 段差の少ない床面等、バリアフリー化の徹底
- 誘導ブロックの整備を行うとともに、校舎の平面計画を「日」の字型とし、分かりやすいよう工夫。
- 体育館の壁面付近にはゴムタイルが敷設され、競技部分と観覧部分を区別しているほか、災害時には、ゴムタイル敷設箇所は通路として確保され避難者が寝泊まりしない計画とし、視覚障害者の空間把握の妨げとならないようにしている。
- 職業や専門教科について学習するための実習室・特別教室の充実
- 備蓄品倉庫や電力供給設備の整備

今後の課題

- 学校としての特性・重複障害児の増加を踏まえた施設整備が必要
 - ・トイレやシャワー等の衛生設備
 - ・普通教室、音楽室の1階への配置・不足、ランチルーム等の教室
- 熊本地震を踏まえた福祉避難所の開設に備えて施設整備が必要
 - ・運動場等に備蓄倉庫、駐車スペース、車寄せ(庇等を含む)
 - ・体育館用のトイレ、水道設備
 - ・体育館のガラスを安全面に配慮したものに変更
 - ・冷暖房、送風設備
 - ・発電機等、電力供給のための設備
 - ・水浄化型の簡易シャワー
 - ・公衆電話、Wifi等の通信設備

9. 熊本県立盲学校



廊下のセンターライン・手すり



スライドドア



教室出入口の点字ブロック



昇降口前の点字ブロック

49

9. 熊本県立盲学校



体育館のゴムタイル



マッサージ実習室



理療科教室(机の位置が固定されている)



軽油の備蓄倉庫



電力供給設備